

Title	子会社戦略と情動的資源の移転
Sub Title	
Author	篠崎由香(Shinozaki, Yuka) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第846号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0846

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	篠崎 由香	主査	奥村 昭博
		副査	和田 充夫
			矢作 恒雄
所属	奥村 昭博 研究室		

子会社戦略と情報的資源の移転

いかなる製品や事業や産業は誕生から成長、成熟、衰退というライフサイクルをたどる。この条件のもとで、企業が長期的な成長を続けていく為には、多角化は、もはや「選択」の問題ではなく、「必然」の手段として捉えられるべきである。

これまでの多角化研究では、子会社・関連会社といった存在は無視されてきた。しかし、実際の企業行動を観察してみると、企業の多角化行動における子会社・関連会社が果たしている役割は、決して無視できるものでは無くなってきている。

本研究では、このような認識に基づいて多角化戦略の分析単位を子会社・関連会社までふくめた企業グループに求めている。

多角化戦略の重要な成功への鍵は、まさに「情報的資源」だと言われている。従って、多角化戦略を企業グループで行う場合、グループ内での情報的資源の移転や共有化をいかにして行うかということが問題となってくるだろう。

本研究では、このような情報的資源の移転や共有化を、人事交流に焦点をあてて分析を行った。多角化を行う企業グループを、その課業環境の違いによって①水平統合型企業グループと②垂直統合型企業グループの2つのタイプに分類し、タイプの異なる企業グループでは、①共有すべき情報的資源が異なること②情報的資源のタイプによって移転や共有化に適した人事交流のタイプが異なることが事例から確認された。

さらに、企業グループとしての統合に関する有効な方法も2つのタイプによって異なることが確認された。